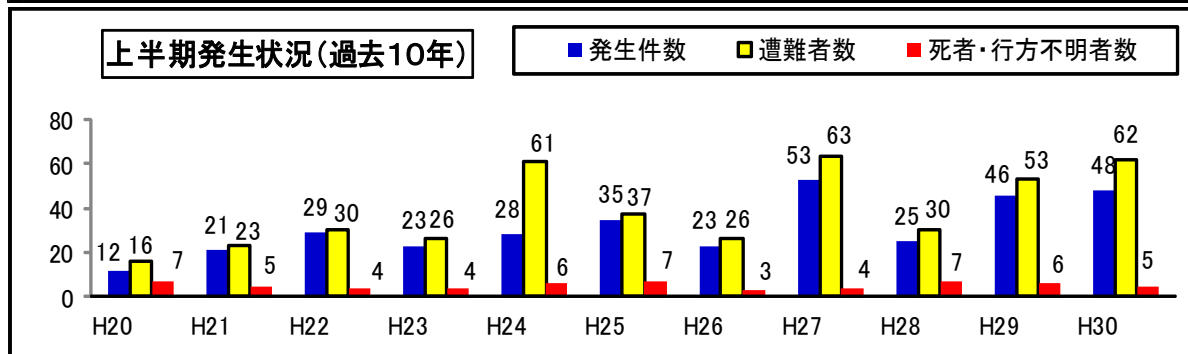


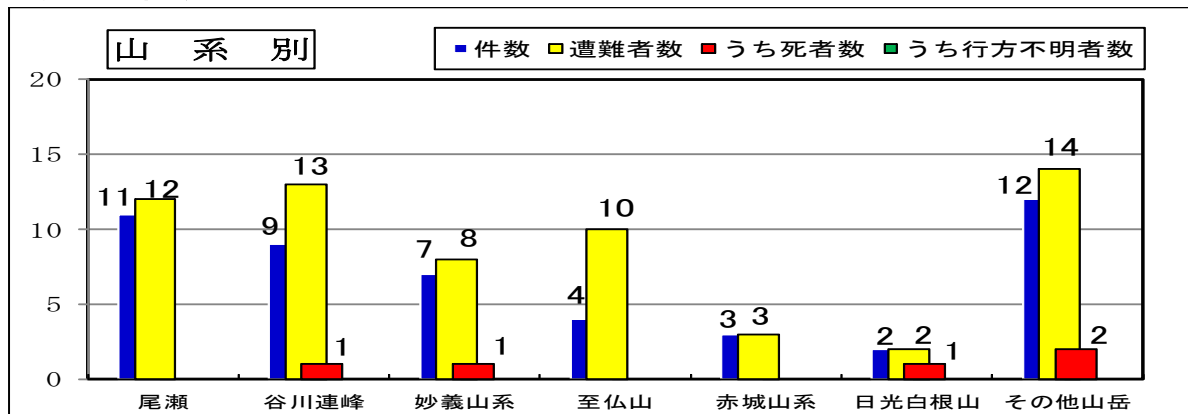
群馬県内の山岳遭難発生状況（平成30年上半期）

1 発生状況

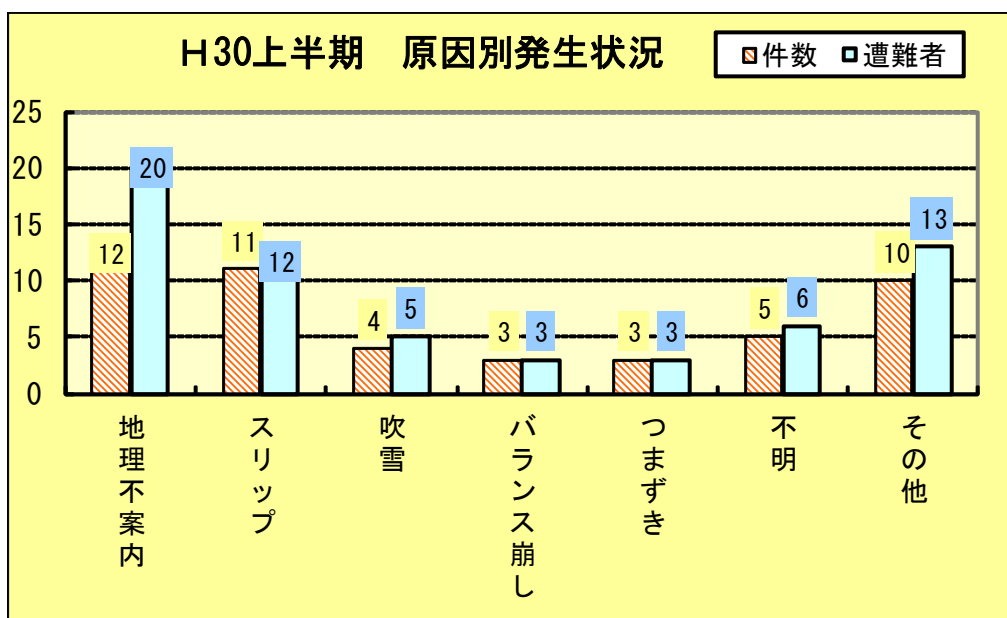
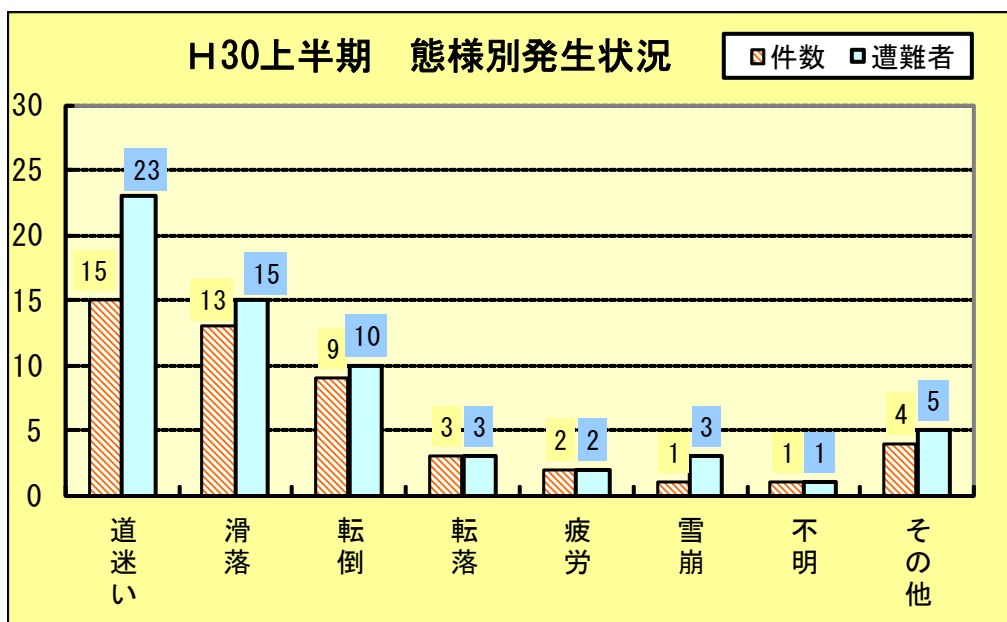
	発生件数 (件)	遭難者数 (人)	死 亡	救 出		行方不明
				怪我あり	怪我なし	
平成30年	48	62	5	34	23	0
平成29年	46	53	5	26	21	1
前年対比	+2	+9	±0	+8	+2	-1



2 発生の特徴



山 系 別	尾瀬11件、谷川連峰9件、妙義山系7件、至仏山4件、赤城山系3件、日光白根山2件、武尊山2件、榛名山系2件、白砂山1件、物語山1件、鹿岳1件、角落山1件、四阿山1件、川井山1件、その他山岳2件
警 察 署 別	沼田署29件、富岡署8件、安中署3件、前橋署・高崎署各2件 桐生署・渋川署・吾妻署・長野原署各1件
入 山 目 的 別	登山45人、スキー登山12人、写真撮影2人、・溪流釣り1人、その他2人
年 齢 別	20歳未満1人、20歳代6人、30歳代5人、40歳代7人、 50歳代15人、60代16人、70歳代12人
男 女 別	男性43人、女性19人
月 別 ・ 曜 日 別	1月3件、2月5件、3月7件、4月6件、5月16件、6月11件 月曜日6件、火曜日5件、水曜日7件、木曜日1件、金曜日4件、 土曜17件、日曜8件
居 住 地 別	県内居住者13人、県外居住者49人



◎ 登山における注意点

最近の山岳遭難の特徴は、中高年登山者による遭難の増加です。

特に体力の消耗による下山中の滑落・転倒事故や無理な計画による疲労が原因の事故、事前の調査不足による道迷い、健康チェックを怠った発病等が増加するとともに、無計画で安易な登山の末の道迷いにより日没を迎え、ヘッドライト等の採光具を持たないがために行動不能となり、救助要請が行われる事故が発生しています。

また、標高の高いところでは気温が急激に低くなり、冬山と同様な条件下になることも予想されますので、次の点に十分注意し、安全な登山を心掛けてください。

◎ 注意点

- 自分の体力、技術、経験に応じた山を選び無理のない計画で行動しましょう。
- 何事も準備が大切です。夏山といえども全国では低体温症による事故も発生していることから、事前に気象情報や登山コース危険箇所等の確認を行い、また、標高の高い山の気象は冬山と同様であることを認識し十分な装備を所持しましょう。
- 天候が急変したときや予定時間に遅れた場合は直ちに下山するよう心掛けましょう。
- ヘッドランプや防寒具など必要な装備品を必ず携行しましょう。
- 家族や職場等に登山コースや帰宅時間、非常時の連絡方法等を必ず伝えるとともに、携帯電話等の連絡手段を確保しておきましょう。
- 計画的な登山を行うため、また万が一に備え、登山計画書（登山届）を提出しましょう。

◎ 特に夏山における注意点として

- 夏山とはいえ、標高の高い山では気象の変動により冬山並の気象条件となりますので、十分な装備品を所持してください。
- 夏山登山では脱水が大敵ですので、こまめに十分な水分を補給しましょう。
- 下山中、疲労や脱水から足の痙攣等により、転倒して怪我をする事故が多発するので、日頃から、体力維持のためのトレーニングを行いましょう。

◎ 特に秋山における注意点として

- 秋は日没が早く、登山開始時間が遅ければ遅いほど、下山時間に影響を及ぼすので、日没前には必ず下山できるように、早め早めの行動を心掛けましょう。
- 採光具を携行しないために、行動不能となる遭難が秋山では多発しています。



※ 携帯電話からQRコードにアクセスすると、登山計画書の届出ができます。